熱い心と癒しの心
ホッとハート
鹿児島徳洲会病院広報誌
2019 秋号 Autumn

～インフルエンザが流行する季節になりました～

内科医師
部長　丸山 邦愛

私の外来の一場面です。
「田中さん(仮名)、今日はどうされましたか？」
「先生、頭がいたいんです」
「大変ですねぇ、葛根湯、出しときましょう。」
「中村さん(仮名)、今日はどうされましたか？」
「先生、今朝から、風邪をひいたようで。」
「葛根湯、2日分、出しときましょう。」
少し説明しますと、田中さん(仮名)は、日頃から肩こりがあり、肩こりがある人に、緊張型頭痛という頭痛が起こることがあります。葛根湯は、このような頭痛に効果を発揮することがあります。

中村さん(仮名)は、来院時、微熱程度で、少し肩の凝りも訴えておられました。熱が上がりきっておらず、肩の凝りがあるよう風邪の場合は、葛根湯が効くことが多いのです。
ところで、鹿児島市内のあちらこちらで、インフルエンザが流行しているようです。このインフルエンザの治療が、簡単そうで、簡単でない、医者泣かせなのです。

当院の外来で、10月になり、インフルエンザを疑われて、実は肺炎だったという若い患者さんが、3人もいらっしゃいました。ご年配の患者さんだと、怖いのが、インフルエンザの検査をして、陽性の結果が出て、抗インフルエンザ薬が処方されて、帰宅、翌日、状態悪化して、救急車で来院というケースが毎年のようにあります。

そのため、私は、インフルエンザの患者さんの診察を行い、必要があれば、インフルエンザの検査を行います。検査を行い、インフルエンザ陽性の場合、抗インフルエンザ薬を希望されるかどうか、希望される場合、徳洲会病院で採用されている抗インフルエンザ薬、それぞれの説明を行い、処方を行います。それに必ず、漢方薬がのめるかどうか尋ねます。私は、インフルエンザには、葛根湯！‥‥を出すことはあまりありません。

インフルエンザを疑って、来られた患者さんは、何時間か前には、なんともなかったのに、急に熱が高くなって受診される場合が多いのです。熱がすでに上がっていますので、麻黄湯という漢方薬を処方することが多いのです。基礎疾患がなく、元気に暮らしている人であれば、麻黄湯と水分摂取で、良くなることもあります。とにかく、インフルエンザ診療は、思ったほど簡単ではないのです。冬場、丸山が、待合室を駆け抜ける姿を見たときは、インフルエンザの患者の診察に走り回っているんだな！と、ご理解いただければと思います。

☆当院のワクチンの接種期間は
「2020年1月31日まで」です。
詳しくは受付でお問い合わせください。

ほっとスタッフ～新しく着任しました～

手術・透析・外来担当
看護師長　救急認定看護師
中村 幸司

８月１日付で手術室、透析室、外来部門の責任者として配属された中村です。これまで、徳洲会の関連病院に応援で出向しており、約二年ぶりに当院に帰ってきました。以前は当院の急性期病棟に勤務しておりました。

昨今、全国的に高齢化率が年々高まる中、鹿児島も同様に高齢化率が高まっています。また、救急搬送された件数のうち、高齢者が占める割合も5割を超えており、不慮の事故による高齢者の死亡原因については、転倒・転落によるものが多く、救急搬送患者の背景も変化してきています。

そして、もう一つ特徴的なのが「高齢者の核家族化」です。鹿児島県は高齢者の独居世帯や夫婦など高齢者のみの世帯の数が全国でも高く、きわめて核家族化が進んでいる県であり、高齢者の救急医療の転換期の真っただ中にいます。そのため、必然的に救急医療も「治す」「救う」ことだけでなく「癒す」「支える」ということが求められてきています。

そんな中、当院は「いつでも、どこでも、誰でも最善の医療を受けられる社会」を目指して、救急医療から在宅医療まで幅広く地域の医療を担っています。急速にすすむ医療現場ですが、その変化に柔軟に対応できるよう頑張っていきます。

今年は、ラグビーのワールドカップ初のベスト8進出、来年は東京オリンピック、鹿児島国体開催、そして新築移転とイベントが続きます。一人では乗り越えられない出来事も、お互いにできることを補いながら、みんなで力を合わせて、「ONE　TEAM」で乗り越えていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

第40回　谷山ふるさと祭りに参加しました

令和元年10月27日（日）に開催されました第40回谷山ふるさと祭総踊りに参加しました！
当院職員43名のほか、職員家族、系列施設の皆様や当院のOBの方々など、総勢70名以上で踊り連に参加させて頂きました。
職員一同わきあいあいと楽しみつつ、一生懸命踊らせて頂きました。
惜しくも踊り連の賞を受賞する事は出来ませんでしたが、来年度こそは受賞できるよう準備していきたいと思います。

MSW　徳　直樹

ほっとコーナー

＜鹿児島徳洲会病院の部署を紹介します＞

回復期リハビリテーション病棟

作業療法士　主任　奥村　健介

◇入院して間もない頃に、**『退院に向けてリハビリができる病院を探して移りましょうか？』**と言われたのですがどうすれば良いでしょうか…？？

退院に向けてリハビリができる病院！

当院では、**『回復期リハビリテーション病棟』**を中心として、患者さんの病気やケガの状態、退院後の具体的な生活の目標に合わせたリハビリを提供する態勢を整えています。

◇**『回復期リハビリテーション病棟』とは…？？**

脳血管疾患（脳出血や脳梗塞、くも膜下出血など）、脊椎圧迫骨折や大腿骨の骨折、脊髄損傷、肺炎や外科手術後の安静による生活能力の低下などで治療が濃厚に必要な時期を脱しても、まだ医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者さんに対して、多くの専門職種がチームを組んで**集中的なリハビリテーションを実施（1日最長で３時間）**し、心身ともに回復した状態で自宅や社会へと戻って頂くことを目的とした病棟です。

◇**当院の回復期リハビリテーション病棟の『特徴』は…？？**

- 最も重症な患者さんへの対応が可能な**『入院料１』**の基準を取得しています。
- ４０名の患者さんに対しリハビリ職員**21名を専属で配置**し、回復期リハビリテーション病棟の実績も国が基準とする目標を達成しています。
- 病棟での生活に密着する看護師や介護士が中心となり、リハビリ以外の時間においても患者さんの退院後の生活を想定した支援に力を入れています。
- リハビリを必要とする患者さんはご高齢の方も多く、リハビリ入院中に他の病気の治療のため転院を余儀なくされることも多いですが、当院では院内の別病棟に移動して治療を継続し、回復期リハビリテーション病棟へスムーズに戻る事も可能です。

◇**『病院を退院してからも心配なのですが…』**

退院後の生活を想定した病院内でのリハビリや看護・介護、実際の自宅や生活の場へ出かけての練習など入院中のサポートはもちろんですが、退院後の生活を支えるためのケアマネージャーや通所リハビリのスタッフなども当院敷地内に在籍し、入院中から退院後の支援への連携を密接に行うことができます。

入院や退院などのご相談のある方は

当院 1F
『入退院支援室』へ
ご相談ください。

発行日／令和元年十一月二五日　発行人／池田佳広　発行／鹿児島市下荒田3－8－1　鹿児島徳洲会病院

診療カレンダー

最新の外来診療担当医表は　https://www.kagotoku.jp/visit/schedule.php
をご参照ください

		月	火	水	木	金	土
午前診 9：00～ 12：00	内科	丸山		丸山	丸山		担当医
		緒方	緒方	緒方	緒方	緒方	
				太良	太良(第1･2･3)	太良(第1･2･3)	
					徳永(第4)	田口(第2・4)	
			湘南鎌倉より		湘南鎌倉より		
	循環器内科	池田	井上	池田	池田	井上	
	外科	長野	長野	中村	長野	中村	
	形成外科	﨑戸		﨑戸		﨑戸	
	整形外科	眞島	眞島	坂本	眞島	眞島	担当医
		坂本				柿本(第2)	
	泌尿器科					葛原(第4)	
	総合診療科	飯田	飯田	波江野	飯田		
	ペインクリニック内科	覚本				覚本(予約のみ)	
	脊椎外来						田辺 (月2回程度)
午後診 14：00～17：00		担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
夕診 17：00～ 20：00	内科/外科	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
	泌尿器科			新村(第4)			

※診療体制が変更となる場合がありますのでご来院の際はあらかじめご確認下さい。
急病の場合は土日、夜間に関係なく外来を受け付けております。

鹿児島徳洲会病院への交通アクセス

バスをご利用の際は右の番線を参考にしてください。

●荒田八幡バス停より徒歩3分
■市営バス ⑭⑮⑱⑲㉘㉙㉚
■鹿児島交通 ①②④⑤⑥⑦⑧⑭⑯㉓㉜
●下荒田四丁目バス停より徒歩1分
■市営バス ㉗
●市電 荒田八幡電停前より徒歩5分

電話番号：099-250-1110（代表）

職員募集のお知らせ

徳洲会病院では下記の職種の方を募集中です。

「看護師」
「看護補助者」
「薬剤師」
「介護福祉士」
「医療ソーシャルワーカー」
「保育士」
「調理師･調理員」

詳しくは当院のホームページをご参照ください

採用情報